

# 県立高等学校の在り方に係るグランドデザイン（清庵・静岡地区）

## 1 要旨

清庵・静岡地区の県立高等学校の在り方について、地域協議会での協議を踏まえ、グランドデザインを策定した。

### ○スケジュール

時 期	内 容
令和6年 1月24日	第1回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（清庵地区）
7月16日	第2回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（清庵地区）
12月24日	第1回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（静岡地区）
令和7年 6月 4日	第2回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（静岡地区）
8月25日	第3回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（清庵・静岡地区）
12月17日	第4回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（清庵・静岡地区）
令和8年 3月16日	第5回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（グランドデザインの検討）

## 2 グランドデザインの概要

「自分」「つながる」「未来」を軸に、生徒が自分と向き合い、他者や社会とのつながりの中で、新たな価値を創出する、学習者主体の学びを確立するための方策を示す

### (1) 目指す人物像

自分の強みを生かし、社会とつながり、未来を創造する人

### (2) 目指す学校像

目指す人物像を育成するため、各学校が有する学科や類型・コースの特色を生かしながら、以下の学びを複合的に展開する学校を目指す

- 専門的な知識・技能を実社会の課題と結び付け、新たな可能性に挑戦する学び
- 科学的・創造的な視点で課題を捉え、論理的思考力を軸に探究を深める学び
- 芸術・文化・国際的な視野を通して多様な価値観を理解し、社会とつながる学び
- 幅広い選択の中で、学びや進路を自らデザインする学び
- 一人ひとりの個性を生かし、他者と協働しながら未来を切り拓く学び

### (3) 改編（再編整備）の方向性

- ・教育の質を確保するため、社会の変化に柔軟かつ迅速に対応した学校再編を、「静岡市立の高等学校の在り方検討委員会」（R8.1月）の検討結果等も踏まえて実施
- ・地区内の公立高校を現在の14校から10校程度に段階的に集約
- ・教育の質を確保するための適正規模（1学年6～8学級）を下回っている静岡西高校と清水西高校、また清水南高校（同中等部含む）については中高一貫教育の望ましい在り方も含めて、速やかに個別協議を行い再編に着手
- ・農業・工業・商業の学びについては、県内における拠点校としての役割を維持
- ・その他の高校については、生徒数の減少状況や学校の配置等を踏まえて検討し、令和20年度頃までを見据えた再編の方針を、令和10年度までに公表

### (4) 今後の対応

各学校におけるグランドデザインの具現化については、県・市・学校で詳細な協議を行った上で決定する。

# 清庵・静岡地区〈公立高校〉のグランドデザイン

## 【課題認識 全県】

- 少子化が進行する中で高校の改革（配置と規模のあり方など）
- 変化の激しい時代を生き抜く力の育成

## 【課題認識 清庵・静岡地区】

- 人口減少が急激に進行し、R20には市内中卒者数が約3割減
- 小規模化により学びの選択肢が制限される中、生徒ニーズは多様化
- 科学技術の進展や社会のグローバル化が進む中、生徒が将来を見据えた進路選択ができるよう、理系分野への関心を高める取組や、グローバル教育の推進が求められる

## 【高校改革の基本認識 全県】

- 行ける学校から行きたい学校へ、画一から多様へ（学びの変革）
- 地域・実社会と共にある学校（開かれた学校づくり）
- 時代の変化を踏まえた教育基盤（学校の配置・規模等）

## 【高校改革の基本認識 清庵・静岡地区】

- 県の中心拠点として、地域、国、世界とつながり、多様な場で活躍できる人材を育成
- 「自分」「つながる」「未来」を軸に、自分を起点に、他者や社会とつながりながら、未来を拓く学びを展開
- 教育の質を確保するため、学校規模の整備、教員の資質・能力の向上を図る学校体制を整える

## 【目指す人物像】

○自分の強みを生かし、社会とつながり、未来を創造する人

- 「自分」：自分の興味・関心に基づく、自己探究・自己形成の力
- 「つながる」：多様な他者と協働し、変化に柔軟に対応しながら課題を解決する力
- 「未来」：新たな価値を創出し、未来の社会づくりに参画する力

## 【目指す学校像】

- 目指す人物像の育成に向け、以下の学びを複合的に展開する学校とする
- 専門的な知識・技能を実社会の課題と結び付け、新たな可能性に挑戦する学び
  - 科学的・創造的な視点で課題を捉え、論理的思考を軸に探究を深める学び
  - 芸術・文化・国際的な視野を通して多様な価値観を理解し、社会とつながる学び
  - 多様な選択の中で、学びや進路を自らデザインする学び
  - 一人ひとりの個性を生かし、他者と協働しながら未来を切り拓く学び

## 【具現化のための方策】

### 【学びの変革のあり方】

- 「自分」
  - ・問いを立て、仮説と検証を重ねる探究的な学びの充実
  - ・ロールモデルに触れ、学びを実践へとつなげる機会の創出
- 「つながる」
  - ・多様な考え方に触れ、対話を軸に思考を深める学びの展開
  - ・社会や世界に目を向け、身近な課題に気づく学びの推進
- 「未来」
  - ・多様な学びや身近な事象を、科学的・論理的に捉え直すことで、見方・考え方を広げるカリキュラムの推進
  - ・自己の在り方を振り返り、次の挑戦に向かう未来志向の学びの構築

### 【地域との連携のあり方】

- 人と人がつながる学びの創出
  - ・地域の魅力を知る学びである「しずおか学」と連動した、幼・保・小・中・特との学びの交流
  - ・地域の人と共に活動し、支え合う経験を通して地域への愛着を育む実践的な学び
- 地域課題や、地域産業と関連付けた実践的な学び
  - ・地域の産業界、大学との協働によるキャリア形成
  - ・大学や企業等と連携した高い専門性を育む教育
- ICTを活用した、地域、世界とつながる取組
  - ・オンラインやAIを活用した共同研究・国際交流

### 【教育基盤のあり方】

- 安心・安全な学習環境の形成
  - ・多様な個を尊重し、対話と協働を基盤とした学びを支える学級経営の推進
  - ・学びの可視化による個に応じた学びと、協働的な学びを一体的に実現するデジタル学習基盤の整備
- 学びを支える教員の育成
  - ・理念を共有し、実現に向かう教員集団の形成
  - ・授業デザイン・カリキュラムの構築、生徒支援などの専門性を高める実践的な研修の実施
- 教育の質を確保するための適正規模（1学年6～8学級）
  - ・地区内公立高校を段階的に10校程度に集約



### 目指す人物像

自分の強みを生かし、社会とつながり、未来を創造する人

#### 自分

自分の興味・関心に基づく、自己探究・自己形成の力

#### つながる

多様な他者と協働し、変化に柔軟に対応しながら課題を解決する力

#### 未来

新たな価値を創出し、未来の社会づくりに参画する力

### 目指す学校像

以下の学びを複合的に展開

- 専門的な知識・技能を基盤に、自ら挑戦する学び
- 科学的・創造的な視点で探究を深める学び
- 多様な価値観を理解し、社会とつながる学び
- 学びや進路を自らデザインする学び
- 個性を生かし、他者と協働しながら未来を切り拓く学び

#### 【教育基盤の整備】

- 安心・安全な学習環境の形成
- 学びを支える教員の育成
- 教育の質を確保するための適正規模（1学年6～8学級）

#### 改編の方向性

- 教育の質の確保に向け、「市立の高等学校の在り方検討委員会」の検討結果等も踏まえて再編整備を実施
- 地区内公立高校を10校程度に段階的に集約
  - ・静岡西高校と清水西高校、また清水南高校（同中等部含む）については、速やかに個別協議を行い再編に着手
  - ・農業・商業・工業は、県内における拠点校としての役割を維持
  - ・その他の高校については、生徒数の減少状況や配置等を踏まえ、R20年度頃までを見据えた再編の方針を、R10年度までに公表